

2月の植物

アテツマンサク (マンサク科)

学名 : *Hamamelis japonica* var. *bitchuensis*

マンサクは「春早くまず咲く」といわれ、早春に花が咲く花木植物である。

山地のやや乾いた斜面や尾根の林内に生育し、樹高2～5mの落葉小高木。葉は互生し菱形状円形～広卵形。左右不相称で基部が少しゆがみ、側脈は6～8対。両面に星状毛が散生するが古くなると脈腋以外は無毛となる。花は葉に先立って開き、花弁は4枚でリボンのようになっている。

身近では庭木や庭園木として見ることができるが、鬼ヶ鼻、天山、経ヶ岳、多良岳の限られた場所に生育するので自然のものを観賞するにはかなりの努力を要する。多良岳では2月になると愛好家がカメラを携え撮影されている姿がよく見られるようになる。

県内はもとより九州のマンサクの多くは岩村政浩氏の調査研究によってアテツマンサクとされている。マンサクとの区別点は萼片が黄色で、成葉に星状毛が多く残るところにあり、中国地方に多く、四国、九州にも見られる。

和名のマンサクは枝いっぱい咲かせる花の様子を穀物の満作（豊作）に例えられ、アテツマンサクは岡山県の阿哲地方に因んで名付けられている。

文責：井手義信



2021.2.24 多良岳

【参考文献】

「樹の咲く花②」（山と溪谷社）

「牧野日本植物図鑑」（北隆館）

「佐賀県植物目録」（佐賀植物友の会）

「佐賀の植物」49号（佐賀植物友の会）